

## 平成 28 年度 第 2 回北関東救急看護研究会

### 発表概要

テーマ： クリティカルケア領域における End Of Life Care

話題提供者

所属： 国立国際医療研究センター病院

氏名： 山田恵美子

クリティカルケア領域は、命を救う場であるが、End Of Life Care の場でもある。End Of Life Care とは、病や老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケアとされている。特徴としては、その人のライフ（生活・人生）に焦点をあて、患者・家族、医療者が死を意識した頃から始まる。そして、QOL を最大限に保ち、その人にとっての良い死を迎えられるようにすることを目標とし、疾患を限定せず、高齢者も対象とされている。クリティカルケア領域における End Of Life の現状として、患者状況においては、来院時の状態や検査で予後不良と判断されても、意識障害・鎮静で意思表示できない、治療継続・中止など医学的検討以外に社会的・倫理的配慮が必要な状況がある。家族状況としては、パニックに陥っていることが多く、医師からの説明を十分に理解できない、家族全員で話し合う時間的余裕がない、残された時間が短く十分に予期悲嘆ができないという状況がある（救急医学会，2007）。

今回、交通外傷で救急搬送され予後が厳しい状況の中、脳出血を来し、手術の有無の代理意思決定を迫られ、手術をしないと選択した家族との関わりを通して、クリティカルケア領域における End Of Life Care について検討した。事例では、緊急手術の代理意思決定・患者の死を意識した家族への関わりに戸惑いが生じた看護師へ、看護師の役割や End Of Life Care について教育的関わりを実施した。重要な選択を迫られている家族への関わりの経験が少なく、何かしなければいけないと思うほど、何をしたいかわからず家族との関わりを持ってなかった看護師が、患者や家族を取り巻く状況を理解し、関わり方の行動変容をすることができた。

クリティカルケア領域での質の高い End Of Life Care を提供するために、ディスカッションでは、日々のカンファレンスや事例のリフレクション、教育的な関わりが検討された。また、End Of Life Care を提供する看護師に必要な知識を教育するための系統的・包括的なプログラムを開発・提供している End-of-Life-Nursing Education Consortium (ELNEC-J) の取り組みを紹介した。今後は組織としての構築が課題とされ、今後もより良い End Of Life Care を探求していきたい。